

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 慶應義塾大学

## 【構想の名称】(タイプB-I)

グローバルイノベーションデザイン・プログラム

## 【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムです。学生は各拠点の特徴的なカリキュラムを通じ、優れたイノベーションデザイン力と国際的な人的ネットワークを身につけることができます。3大文化経済圏におけるリーディングスクールに半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現します。修了者には在籍校の修士学位に加え、3拠点合同のサーティフィケートが発行されイノベーションデザイン分野での高い能力を保証することを計画しています。本プログラムの取り組みは日本の大学の国際的な認知向上の先端的事例となり、今後の国内大学の国際化に寄与することが期待されます。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

### 「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成

クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材育成を目標として、以下のような能力を育成します。

#### 1.イノベーションデザイン力

- 戦略:** デザインを活用して社会的価値を生み出す戦略力
- 意匠:** 世界的マーケットに通用するデザインを実現する意匠力
- 発想:** デザインエンジニアリングに基づく実践的な発想力

#### 2.プロジェクト実行力

コラボレーションを通じたイノベーションデザインを実践する力

#### 3.国際的コミュニケーション力

文化・ビジネスの多様性を体得し、国際的人脈を形成する力

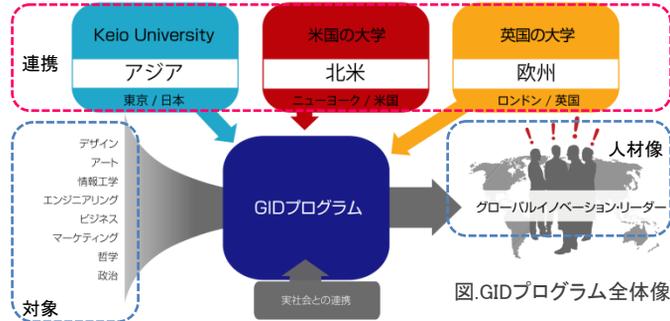


図.GIDプログラム全体像

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### ○ GIDメインプログラム

GIDサーティフィケートが取得可能な修士プログラム

所属大学院の修士号に加え、3校合同発行のGIDサーティフィケートを発行するプログラムです。1年目は所属大学に滞在、2年目は提携2校にのべ2回の留学を実施する2年半のカリキュラムです。グループワークを中心とした教育メソッドの実施、およびGPAに基づく単位の相互互換を実施します。また所属拠点を越え、遠隔会議システムを利用した3大学共同プロジェクトの実施を検討しています。

### ○ GIDショートプログラム

演習・講義を通じて、GIDメインプログラムのエッセンスを体験する短期留学プログラム

学部生を対象に米国Pratt Instituteで開催する約1週間の短期留学で、各提携校の教員が合同でプログラムを提供します。他大学からの学生参加も募集し、本学学部生には渡航費を支援する予定です。

### ○ GIDプログラム運営・評価体制

3校共同による入学、評価、カリキュラムの調整を行う合同運営委員会に加え、学生のサポート等を横断的に行う合同事務委員会を設置、また外部有識者からなる評価委員会を設置し、継続的な質の向上を図ります。

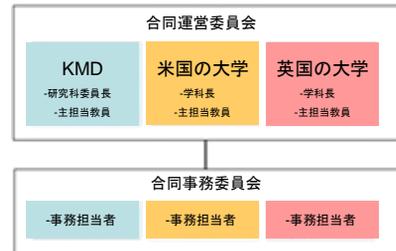
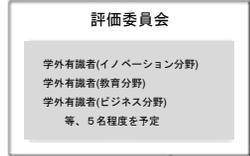


図.GIDプログラム運営・評価体制

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 国際的ブランディング

国際的なマーケティング会社と協力し、戦略的なブランド形成を行います。支援期間中に米国での成果発表会を実現します。

### ○ 国内への成果普及

Webでの積極的な経過・成果の報告に加え、経営者、教職員、学生など複数の観点から大学国際化のノウハウを共有します。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

構想主体であるメディアデザイン研究科では日英バイリンガルでの授業を実施しており、さらに適切な外国人専任教員を雇用し、プログラムの円滑な運営を図ります。また、職員についても日英でのコミュニケーションを徹底します。各提携校には日常的な国際間コミュニケーションを実現する遠隔会議システムを設置、また各提携校で学生の滞在する寮等を確保し、移動をスムーズにします。また、プログラムの留学生や日本人学生とその他の学生のネットワーク形成を積極的に支援します。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

GIDメインプログラムに本学から参加する日本人修士学生は、カリキュラム中に米国と英国へそれぞれ半期ずつ、計2回の留学を行います。また、GIDショートプログラムでは、学部生を中心に毎年10名ほどの学生が米国へ短期留学します。プログラム中で、のべ80人の留学が実施されます。

### ○ 外国人留学生の受入れ

本プログラムへの両提携校から半期ごとに10名ほどを留学生として受け入れます。また、本学へと直接入学する留学生として毎年5人ほどを受け入れる予定です。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	20	20	20	20
学生の受入	0	5	25	25	25

# 大学の世界展開力強化事業 取組実績 慶應義塾大学

## 【構想の名称】(タイプB-I)

グローバルイノベーションデザイン・プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標としています。

## 【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムです。3大文化経済圏におけるリーディングスクールに半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現します。修了者には在籍校の修士学位に加え、3拠点合同のサーティフィケートが発行されイノベーションデザイン分野での高い能力を保証することを計画しています。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ **GIDプログラム事業の推進**: H24から開始するメインプログラムの学生募集に先駆け、2月から3月にかけて参加大学の教職員間の相互派遣を行い、プログラムの体制強化及び教員間の交流を実施しました。米国から1回2名の教職員受け入れ、英国から計2回9名の教職員受け入れ、また本学から各提携校へ各2回、3名ずつの派遣を実施し、本プログラム実施のための環境整備やカリキュラム、ビザや学生寮等の受入体制についての調整を行いました。

○ **教職員の国際化のための人材育成**: 教職員の国際化のための人材育成事業として、プログラムに関与する3名の教員を米国Stanford Universityへ派遣、さらに周辺のイノベーション分野において注目度の高い企業教社の訪問を実施し、現地のデザインビジネスに関する最新事情の調査、デザイン教育および育成する人材像に関するニーズの調査、および今後のプログラムの持続的な運営のためのGIDコンソーシアム設立への提携についての打診を行いました。さらに、提携先の米国・英国へ教職員の派遣を行い、各大学の提供する教育プログラムの視察を行いました。訪問によって得られた知見は、本学で開催された派遣成果報告会において発表・共有しました。

○ **教職員の雇用**: 英語力と国際的経験を重視して、バイリンガルな教員および職員の採用を行い、3名のデザインエンジニアリング分野に強い本学教員を配置、さらに教員1名、職員1名を雇用しました。さらに国際化強化として教員1名の国外公募を実施しました。



〈英国教職員受け入れ〉



〈コンソーシアム設立に向けた米国の企業訪問〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈各提携校への日本人学生の派遣〉



〈各提携校からの留学生の受入れ〉



○ **プレ・プログラムの実施**: GIDメインプログラムのトライアルとして相互派遣のプレ・プログラムを実施しました。本学からは在籍学生から募集・選考を行い、米国・英国の各提携校へ短期で派遣、現地の教育プログラムへ参加しました。派遣学生には帰国後にプログラムの質の向上に関するヒアリングを行い、さらに現地の設備や周辺の安全状況、住環境などについての実体験に基づくレポートの作成を義務づけました。派遣中の活動報告は報告書および本学にて開催された報告会で共有しました。また各提携校からもそれぞれ短期で学生を受け入れ、本学の特別プログラムを提供しました。受入学生には帰国後に本学の教育プログラムおよび設備や周辺環境に関する事後アンケートを実施しました。

○ **メインプログラムの準備**: H24より開始する修士プログラムの準備として、カリキュラム設計や入試要項などの詳細調整を行いました。

○ **ショートプログラムの準備**: H24夏期に実施される学部生対象の短期派遣プログラムの準備として、米国における受け入れ態勢の準備、およびカリキュラムの設計を行いました。H24、5月より募集を開始する予定です。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生の派遣**: 本学の在籍学生から米国へ2名(1週間)、英国へ2名(3週間)を派遣しました。

○ **外国人留学生の受入れ**: 米英の各提携校からそれぞれ2名の学生を受け入れました。

注)H23は実績、H24以降は計画。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	20	20	20	20
学生の受入	4	5	25	25	25

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **学生の受入・派遣環境の整備**: 施設・設備の強化としてGID学生専用の教室「GIDプロジェクトルーム」と、製作活動を行う部屋「GIDスタジオ」を整備しました。また3大学が常時接続して学生が相互コンタクトを取る環境として、各拠点にネットワークを通じたテレビ会議システムを設置しました。本環境はプレ・プログラムでの学生受入時に活用し、さらなる改善についてのフィードバックを得ました。



〈左:GIDプロジェクトルーム、右:GIDスタジオ〉

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ **広報体制の強化**: 本プログラムではまず成果普及の前提となる国内外での認知向上を目標とし、そのため国内外への情報発信力を強化するための専門のマーケティングアドバイザーと提携しました。本プログラムの育成する人材像と本プログラムの生み出す成果や社会的インパクトを明確にした上で、ロゴマークの設計、英語圏での効果的なブランディングのためのパンフレットとウェブサイトのデザイン、および今後の国内外への告知活動に関するマスタープランの作成を行いました。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

グローバルイノベーションデザイン・プログラム(以下、「GIDプログラム」)

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標としています。

【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムです。3大文化経済圏のリーディングスクールである提携校に半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現します。修了者には在籍校の修士学位が授与されます。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 3拠点が連携するGIDプログラム修士課程の教育カリキュラム設計を完了

米・日・英の大学が連携し2年半におよぶ修士プログラム(GIDメインプログラム)をH25年度から開始させるべく、実験的な短期学生交流プログラム(プレ・プログラム)や3拠点合同の定期的な協議を通して、連携大学が一貫して協働提供する教育カリキュラムの策定を完了した。

### ○ 大学間交流に参加する学生の選抜とGIDメインプログラムの開始

H25年度から留学を開始する学生の選抜、3拠点それぞれが提供する授業科目の単位互換・成績管理の方法策定、本プログラムの契約書締結についての最終調整を行った。また、応募学生に向けた情報を発信するウェブサイトを開示した(<http://gid.kmd.keio.ac.jp/>)。

### ○ 外国人特任講師の雇用と海外からの訪問教授による特別講義科目の開講

トランス・ナショナルな教育経験の質的向上を図るため、H24年9月から米国出身の常勤外国人特任講師1名他を雇用した。また、世界的に活躍する3名の特別講師を海外から招き、ビジネスやイノベーションデザインなどに関する特別講義を実施した。



〈Josh Spear氏による特別講義〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈GIDショートプログラム〉



〈本校で実施したプレ・プログラム〉

### ○ 3拠点それぞれの特色を生かしたGIDショートプログラムの実施

3拠点それぞれの特色を生かした1週間のGID導入教育プログラム(ショートプログラム)を提携校の米国Pratt Instituteにおいて実施し、10名の学部学生を派遣した。

### ○ プレ・プログラムの実施および修士プログラムの開始

3拠点が協働で提供する教育カリキュラムの検討を行うべく、各拠点ごとに約1ヶ月におよぶプレ・プログラムを実施した。ここで得た学びを生かし、本格的な修士教育課程であるGIDメインプログラムに選抜された学生はH25年9月より留学を開始する予定である。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

H24年度、ショートプログラムでは学部生10名(すべて日本人)を米国へ派遣した。プレ・プログラムでは米国へ7名(うち日本人3名)、英国へ4名(うち日本人3名)、計21名(うち日本人学生16名)を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

プレ・プログラムに参加した外国人留学生は、本研究科に所属する学生5名、英国の提携校から3名、米国の提携校から3名、メインプログラムの学生2名と、計13名の外国人留学生となった。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本人学生の派遣	3	16	20	20	20
留学生の受入	5	13	25	25	25

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ GIDプロジェクトルームの運用・整備

H24年度に設置したGID学生専用の教室「GIDプロジェクトルーム」と、制作活動を行う部屋「GIDスタジオ」を使用して、受入学生と本学学生がグループで活動するワークショップを行った他、実際の教育・研究の進行に合わせて設備の整備を行った。

### ○ 学生の受入・派遣環境の整備

プレ・プログラムの実施経験をもとに、GIDメインプログラム生の宿舍を3拠点それぞれにおいて決定した他、ビザ取得などの受入・派遣に必要な手続き方法を確認した。また上述のショートプログラムに参加した聴覚障害を持つ学生が米国で受けた講義参加支援法から学び、本学においても学生ボランティアの協力による聴覚障害学生への支援方法を確立した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ GIDシンポジウムおよびGIDワークショップの開催

H24年11月21日にGID Symposium 2012を開催し、本プログラムの取組を全世界へ発信した。11月23日には本学キャンパス内でGID Workshop 2012を開催し、GIDが提供するデザイン教育を外部へ紹介した。またH24年度の成果を写真とエッセイを束ねて収録したアニュアル・レポート『Global Innovation Design 2012』を制作した。



〈Dale Russell教授による基調講演(シンポジウム)〉



〈GIDワークショップ〉

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

グローバルイノベーションデザイン・プログラム(以下、「GIDプログラム」)

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標としています。

【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムです。3大文化経済圏のリーディングスクールである提携校に半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現します。修了者には在籍校の修士学位が授与されます。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 米・英・日の3拠点が連携するGIDプログラム向上のための取組

本年度からのGIDメインプログラム実施に伴い、各拠点の教員との定期的な協議を通じて、カリキュラムの調整を行った。また、外部の評価委員を招聘し、客観的なアドバイスを得る事により、プログラムの質の向上に取組んだ。

### ○ GIDプログラム特任講師の雇用と海外からの訪問教授による特別講義科目の開講

トランス・ナショナルな教育経験とプログラムの質の向上を図るため、H25年12月から常勤特任講師1名他を雇用した。また、世界的に活躍する3名の特別講師を海外から招き、ビジネスやイノベーションデザインなどに関する特別講義を実施した。



〈Garr Reynolds教授による特別講義〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈英国RCA校でのメインプログラムの様子〉

### ○ 米・英・日の3拠点が連携するGIDメインプログラムの実施

英国Royal College of Art/Imperial College London および米国Pratt Instituteと連携した修士教育課程のGIDメインプログラムをH25年9月より開始した。本学から8名の学生が9月から12月までRCA/Imperialへ、H26年1月から5月までPrattへ派遣された。Prattからは7名の学生をH25年9月からH26年1月まで、RCA/ImperialからはH26年3月から12人の学生を受け入れた。プログラムの一環で、ビデオ会議システム等を駆使し3拠点が合同で、「GIDインターナショナルプロジェクト」を実施した。

### ○ 3拠点それぞれの特色を生かしたGIDショートプログラムの実施

3拠点それぞれの特色を生かした1週間のGID導入教育プログラム(ショートプログラム)を提携校のPrattにおいて実施し、10名の学部学生を派遣した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生等の派遣

H25年度に派遣した学生はすべて本学の正規課程に在籍している。メインプログラムでは米国へ8名(うち日本人6名)、英国へ8名(うち日本人6名)、ショートプログラムでは学部生10名(すべて日本人)を米国へ派遣した。計のべ26名(うち日本人学生22名)を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

メインプログラムで受入れた提携校からの外国人留学生は、Prattから7名、RCA/Imperialから12名で、計19となった。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本人学生の派遣	4	21	26	20	20
留学生の受入	4	6	19	25	25

注)H23・H24・H25は実績、H26以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ GIDプロジェクトルームの運用・整備

学生の要望を取り入れ、GID学生専用の教室「GIDプロジェクトルーム」の壁をホワイトボード化する等、実際の教育・研究の進行に合わせて設備の整備を行った。

### ○ 学生の受入・派遣環境の整備

メインプログラムの実施において、ビザ取得などの受入・派遣に必要な手続きの支援を行った。また、取り決めておいた3拠点での宿舎へ各プログラム生を受け入れた。留学生の日常生活の支援は担当教員および次期派遣学生によって行った。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ GIDシンポジウム・ワークショップの開催と広報活動

H26年2月28日に提携校の教員や基調講演者を招聘してGIDシンポジウムを開催し、本プログラムの取組を全世界へ発信した。この際に、「インターナショナルプロジェクト」の成果を会場に展示した。3月1日にはGIDワークショップも開催し、GIDが提供するデザイン教育を外部へ紹介した。広報活動としては、H24年度の成果を収録したアニュアルブックの制作と配布を行った。また、3拠点に於ける活動を収録したGIDプロモーションビデオも制作し、[YouTube](#)で発信をした。



〈Gordon Bruce氏による基調講演(GIDシンポジウム)〉



〈GIDワークショップ〉

# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

グローバルイノベーションデザイン・プログラム(以下、「GIDプログラム」)

【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標とする。

【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・日・英の国際連携教育プログラムである。3大文化経済圏のリーディングスクールである提携大学に半期ごと滞在することで、トランス・ナショナルな教育環境を実現する。修了者には在籍校の修士学位が授与される。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 米・英・日の3拠点が連携するGIDプログラム向上のための取組

第2期となったGIDメインプログラムの改善と円滑な運営のために、ビデオ会議システムを用いて、提携大学教職員との合同運営委員会を毎月開催し、カリキュラムの調整を行った。さらに提携大学訪問中(平成26年7月)には、対面による3拠点合同運営委員会を実施し、第2期メインプログラムのカリキュラムの詳細設計に関する再調整を行った。

### ○ 招聘教授による特別講義科目の開講と外部審査員によるアドバイスのヒアリング

プログラムの質の向上をはかるため、国際的に影響力のある教育者やイノベーションデザイナー3名の招聘教授の雇用を行った。また、国内外の有識者である評価委員にヒアリングを行い、実社会で必要とされている国際的な人材を輩出できるよう、プログラムの質の向上に取組んだ。

〈Julia Cassim教授による特別講義の様子〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈メインプログラムの様子〉



### ○ 米・英・日の3拠点が連携するGIDメインプログラムの実施

平成25年度に引き続き、修士教育課程の一環であるGIDメインプログラムを米国Prattと英国RCA/Imperialと提携し行った。平成26年5月に帰国した第1期生に対して、本プログラム終了の評価基準を設定し、GIDプログラムサーティフィケート授与のための成果発表会をした。その結果、すべての学生が本プログラム終了の評価基準を満たした。その内4名が平成27年3月に本研究科を修了し(他4名は平成27年9月修了予定)、米国シリコンバレーでの起業や国際企業に就職し、グローバルイノベーションデザイン・リーダーとしての第一歩を踏み出した。現在は提携大学と綿密なコミュニケーションをとり、第3期生の受入・派遣準備を進めている。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成26年度、メインプログラムでは米国へ8名(うち日本人5名)、英国へ8名(うち日本人5名)、ショートプログラムでは学部生11名(すべて日本人)を米国へ派遣した。計のべ27名(うち日本人学生21名)を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

メインプログラムに参加した外国人留学生は、米国の提携大学Prattから11名、英国の提携大学RCA/Imperialから11の計22名である。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	21	26	27	20
学生の受入	4	6	19	22	25

注)H23~H26は実績、H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ カリキュラムの改善

派遣学生の語学力の強化のため、提携大学での語学強化授業の履修を調整した。また、外国人学生の受入れに対しては、KMDが得意とするデザインとテクノロジーの融合領域を社会・ビジネスとの関わりの中で実践的に学ぶカリキュラムを提供した。

### ○ 帰国後の自主的国際交流

帰国したKMD学生は本学に留学中の受入学生の生活・学業面のサポートを自主的に行っている。これにより、帰国後も英語力を保持でき、留学中だけの国際交流体験だけに留まらず持続的な国際交流が保たれている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### ○ 国内外での成果発表および受賞

本プログラムの成果発表会を国内(計5回)と米国(平成27年度5月開催)で行った。また、「東京デザイナーズウィーク2014」(平成26年度10月開催)、「IE-KMD Venture Day」(平成26年度12月開催)、シンガポールで行われた国際会議「Augmented Human 2015」(平成27年3月開催)で発表した本プログラム学生が賞を獲得するという成果もあげることができた。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 慶應義塾大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

グローバルイノベーションデザイン・プログラム(以下、「GIDプログラム」)。

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムではイノベーションデザイン力、プロジェクト実行力、国際的コミュニケーション力を持ち、クリエイティブな思考に基づきイノベーションを創出できる国際的な人材「グローバルイノベーションデザイン・リーダー」の育成を目標とする。

## 【構想の概要】

本構想は創造社会におけるグローバルイノベーションデザイン・リーダー育成を目的とした米・英・日の国際連携教育プログラムである。3大文化経済圏のリーディングスクールである提携大学に半期ずつ滞在させることで、トランス・ナショナルな教育環境を実現する。修了者には在籍校の修士学位が授与される。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 米・英・日3拠点の信頼関係強化

提携大学との合同運営会議を定期的開催することにより、関係教職員の相互の信頼が深まり、プログラムの実施や運営がスムーズに行われた。

### ○ 外部評価者を含めた運営体制

本年度も引き続き外部評価委員3名から評価および意見・助言を受け、カリキュラムならびに諸活動の改善・向上につなげた。

### ○ 教育体制の強化と国内外からの教員招聘

デザイン分野を専門とした特任教員だけでなく、工学や国際教育を専門とする教員をGIDプログラムの担当とすることにより、本研究科の強みであるテクノロジーを利用したデザイン教育を効果的に教授する体制を整えた。また、世界的に活躍する教員を招聘し授業を担当していただいた。学生は実践的な起業戦略やプレゼンテーションスキルを学び、企業家や投資家の前で発表し講評を得る、質の高い教育を受けた。

Paris de L'Etraz教授による特別講義



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

Dubai Design Week 2015



### ○ 米・英・日3拠点と連携したGIDプログラム

昨年度に続き、学部生にGIDプログラムのエッセンスを体験させるショートプログラム、および各大学特有のデザイン哲学と実践を学ぶ修士課程のメインプログラムを、米国Pratt Instituteおよび英国Royal College of Art/Imperial College Londonと合同で実施した。本プログラムの参加学生の活動成果が外部組織から評価されることが増えてきた。例えば、平成27年10月にドバイで開催されたDubai Design Week 2015では、本学の学生がGIDプログラムで制作した作品がGlobal Grad Show 50作品の1作品に選ばれ、全世界からの参加者が集う会場で披露された。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本からの学生派遣

平成27年度、メインプログラムでは米国へ12名(うち日本人7名)、英国へ12名(うち日本人7名)、ショートプログラムでは学部生10名(すべて日本人)を米国へ派遣した。計のべ34名(うち日本人学生24名)を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成27年度メインプログラムに参加した外国人留学生は、米国の提携大学Prattから6名、英国の提携大学RCA/Imperialから12名の計18名となった。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	21	26	27	34
学生の受入	4	6	19	22	18

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 本学学生との交流を促進

外国人留学生に専用スペースだけでなく一般学生と同じ共同研究居室を利用させることで、デザイン分野以外の学生との交流を深め、多様な意見交換ができる環境を提供した。

### ○ 継続した研究活動を可能にする環境整備

担当教員が留学前から定期的に指導にあたり、遠隔会議システムを利用しながら留学中やその後も継続した研究活動ができる環境を整えた。また、留学先の宿舎についても安価・安全な施設を提供した。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

### ○ 国際化プログラム構築ノウハウの共有と普及

平成27年5月に米国ニューヨークで実施した成果発表会、同年7月に東京・代官山で実施した「KMDサロン」、ならびに平成28年3月に本学・三田キャンパスで実施した総括シンポジウム「GIDカンファレンス」では、他大学の教職員や国際展開をするグローバル企業からの参加を得、多方面にわたりGIDプログラムにおける構築のノウハウの共有ができた。国外大学のみならず、国内外のグローバル企業との連携を促進し本プログラムを共同で推進していくために、「KMD Global Design Leadership Consortium」を平成28年3月に設立した。成果発表会や展示会での作品展示を通して本研究科を知り、受験をする学生が増加している。また、本プログラムで培った知見を活かした結果、本プログラムを基盤にした新規プログラムの展開につながった。